



2015年5月14日
日本板硝子株式会社

2015年3月期 通期連結決算報告 (2014年4月1日～2015年3月31日)

- 無形資産償却と個別開示項目前営業利益は前年比13%改善し、当期利益が黒字化
- コスト削減による効果が反映し利益改善
- 市場状況は、改善している地域と低調な地域が混在
- 2016年3月期において、市場状況の緩やかな改善を想定

無形資産償却と個別開示項目前営業利益は前年比13%改善し、当期利益が黒字化

- グループ売上は、6,267億円の前年比3%増収（前年同期6,061億円）
- 無形資産償却と個別開示項目前営業利益は、コスト削減による効果を反映し252億円（前年同期224億円）
- 建築用ガラス事業は、売上2,529億円（前年同期2,406億円）、営業利益170億円（前年同期109億円）
- 自動車用ガラス事業は、売上3,140億円（前年同期3,051億円）、営業利益94億円（前年同期112億円）
- 高機能ガラス事業は、売上587億円（前年同期594億円）、営業利益49億円（前年同期59億円）

市場状況は、改善している地域と低調な地域が混在

- 欧州の建築用ガラス市場は安定的に推移
- 欧州域内の乗用車販売台数は前年を上回る水準、第4四半期にて市場状況に改善の兆し
- 日本では、建築市場が消費増税の影響を受け数量減の一方、日本の新車(OE)用ガラスの数量は堅調
- 北米では、建築用ガラス市場は堅調な需要を背景に好調を維持。自動車用ガラス市場も引き続き改善
- その他地域では、建築用ガラス市場において東南アジアで需要レベルが増加。南米では自動車用ガラス市場低調
- 高機能ガラス市場は、改善している市場と低調な市場が混在。ディスプレイ用薄板ガラスが価格競争の影響を受ける一方、オフィス向けプリンター用レンズの需要は堅調

2016年3月期において、市場状況の緩やかな改善を想定

- 欧州の建築用ガラス市場は概ね横ばい、自動車用ガラス市場では第4四半期に見られた乗用車販売台数の回復が続く見込み
- 日本の建築用ガラス市場は若干の改善、自動車用ガラス市場は短期的に弱含みの様相
- 北米の市場における数量は堅調、南米の市場は引き続き厳しい経済環境の影響を受ける
- 東南アジア市場の状況は更に改善、太陽電池用ガラスの需要は増加が続く見込み
- 高機能ガラス市場は、全般的に前年度に比べて改善

<2015年3月期通期連結決算説明資料より抜粋>

連結損益計算書



(億円)	15年3月期 通期	14年3月期 通期	前年比
売上高	6,267	6,061	3%**
無形資産償却と個別開示項目前営業利益	252	224	13%
償却費*	(84)	(79)	
個別開示項目前営業利益	168	145	
個別開示項目	55	(138)	
営業利益	223	7	
金融費用(純額)	(179)	(168)	
持分法による投資利益	4	10	
税引前利益(損失)	48	(151)	
当期利益(損失)	29	(155)	
親会社の所有者に帰属する当期利益(損失)	17	(166)	
EBITDA	579	544	6%

*ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却
**為替変動を除くと0%

コスト削減の効果と市場の状況を反映した利益状況

2015年5月14日 | 2015年3月期通期決算報告

2016年3月期通期業績予想



(億円)	2016年3月期 見通し	2015年3月期 実績
売上高	6,550	6,267
無形資産償却前営業利益	320	252
償却費*	(80)	(84)
営業利益	240	168
個別開示項目	-	55
金融費用(純額)	(180)	(179)
持分法による投資利益	20	4
税引前利益	80	48
当期利益	35	29
親会社の所有者に帰属する当期利益	20	17

*ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

市場状況の緩やかな改善を想定

2015年5月14日 | 2015年3月期通期決算報告